

●記念講演：野澤 千絵（東洋大学理工学部建築学科教授）
「老いる家 崩れる街～住宅過剰社会からの脱却に向けて」

●コメント&ディスカッション

大泉英次（追手門学院大学教授）

「住宅市場をどう動かすか」

日置雅晴（弁護士、早稲田大学・立教大学講師）

「現場で直面する現実の姿」

窪田亜矢（東京大学教授）

「住宅が群となって価値を生み出すために」

日時：2017年12月16日（土）13：00～17：00

（13：00から住宅会議総会。14：00から記念講演）

会場：東京大学工学部2号館211教室

東京都文京区本郷7丁目3-1 地下鉄「本郷3丁目駅」から徒歩10分

参加費（資料代）：会員・学生500円、非会員1000円

「私たちは、『人口減少社会』なのに『住宅過剰社会』という不思議な国に住んでいます。」野澤千絵さんの「老いる家 崩れる街」（講談社新書）の冒頭に登場する一節です。

今日、全国の空き家は800万戸をこえ、増加の一途をたどっています。住宅セーフティネット法の改正による登録住宅制度もこの空き家の活用を一つの狙いに行っています。他方で、都市再開発があちこちで行われ、タワーマンションなどの住宅供給が展開されています。同時に少子高齢化、人口減少が進む中で、ホームレスやハウジングプアがひきつづき大きな問題となっています。こうした住まいをめぐるアンバランス、ミスマッチは一体何故生じているのでしょうか。

記念講演をふまえ、専門家のコメントをもとに、様々な角度から議論したいと思います。

